

アジア原子力人材育成会議 概要

(平成24年3月9日 福井県若狭湾エネルギー研究センター)

1. 「第13回アジア原子力協力フォーラム(FNCA)コーディネーター会合」の一環として、福井県・若狭湾エネルギー研究センターが主催する「アジア原子力人材育成会議」を開催した。
オーストラリア、バングラデシュ、中国、インドネシア、カザフスタン、韓国、マレーシア、モンゴル、フィリピン、タイ、ベトナム、日本の12カ国の代表者26人が参加した。
2. 福井県国際原子力人材育成センター長が、若狭湾エネルギー研究センターが行う研究開発や、海外の行政官・技術者等を対象とした研修事業等について説明を行った後、各国との意見交換、討議が行われた。
3. 主な発言は、以下のとおりであった。
 - 放射線利用では、各国が医療、農業、工業の幅広い分野での研究開発を進めており、陽子線がん治療や植物の品種改良等を行っている若狭湾エネルギー研究センターの研究開発については、非常に興味深く、今後の研究協力を進めてほしい。
 - これからも、福井県に集積する原子力研究機関や大学を中心に、アジアにおける原子力の平和利用や安全性向上に貢献するため、海外から研究者、学生等を積極的に受入れ、交流を推進するとともに、これらの機関との共同研究等の実施を期待する。
 - 福島第一原子力発電所事故後、原子力発電の安全性の確保、向上の面から、人材育成はより一層必要性が高まってきており、原子力発電の立地や導入計画の有無にかかわらず、参加国いずれもが原子力の安全向上に役立つ人材育成を望んでいる。
 - 福井県国際原子力人材育成センターが、県内の施設や人材を有効に活用し、海外研修生を対象に実施する実践的な研修や福島第一原子力発電所事故の教訓を踏まえた研修カリキュラムは、非常に有益で評価される。さらに、福井県における経験豊富な地元理解(PA)や環境モニタリング、オフサイトセンターの機能についての研修の充実や、海外への講師派遣等を期待する。
4. 福井県国際原子力人材育成センターとしては、今回の会議で得た各国のニーズを踏まえ、それに応えるべく、事業のより一層の充実に努めるとともに、参加国とのネットワークを強化する。各国からは福井県の人材育成機能の積極的な活用について期待が表明された。